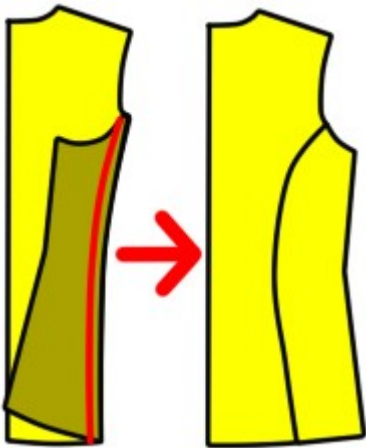


■ 表
■ 裏 ■ 接着
 芯

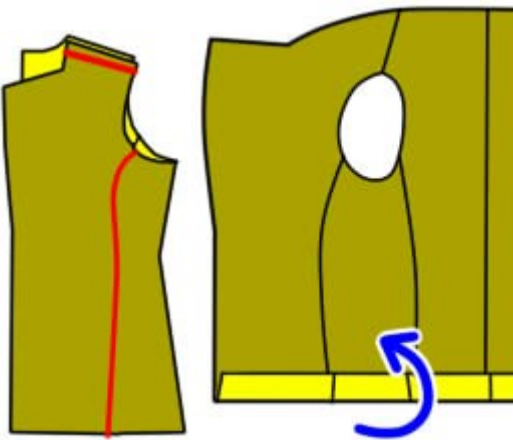
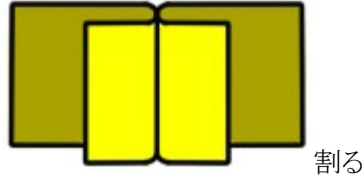
接着芯を貼る。
 型紙についている縫い代の印を忘れずに写す。
 詳しくは縫う前の下準備参照
 裁断した全てのパーツの端を**ほつれ止め**をする。
 見返しとえりと持ち出しの裏に接着芯を付ける



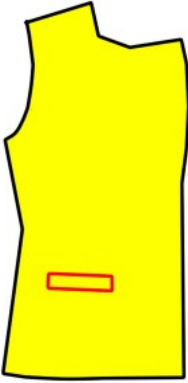
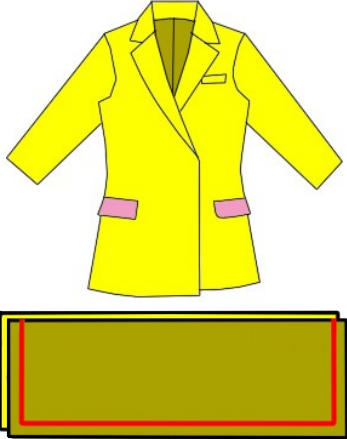

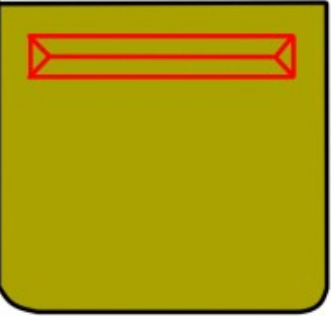
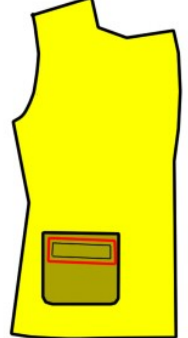
中心を縫う

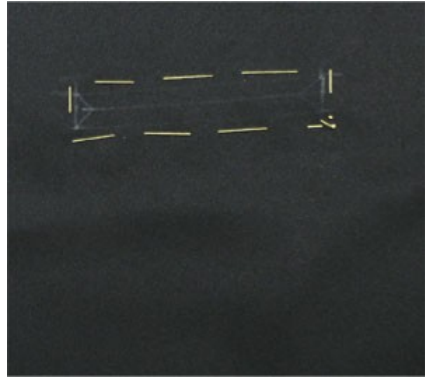
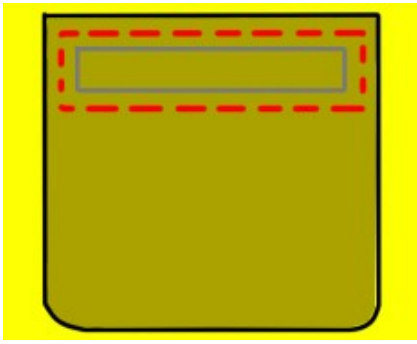


身頃の中心と脇のパーツを表同士が内側になるように(中表)重ねて縫う。(図は後身頃)
 縫い代は左右に割っておく。

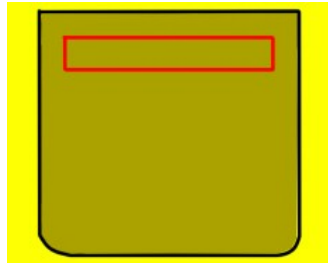


肩と脇を縫う。
 すその縫い代をアイロンで折り目を付けておく。

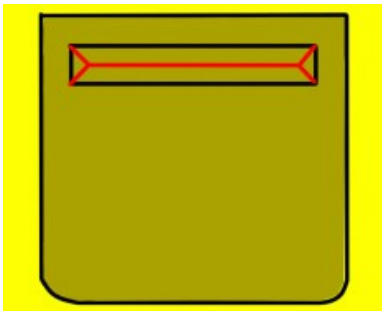
	<p>・玉ぶちポケットの縫い方。 ポケットを付ける位置に印を付ける。</p>
	<p>雨ふた(フラップ)付きの服にする場合は先に雨ふたを作る。</p> <p>2枚の雨ふたの生地の内側同士が表になるように重ね(これを中表という)縫い代を縫う。</p> <p>ひっくり返すために一部縫わずに開けておく。</p> <p>表に返して、縫い代の中に入れ込み、アイロンで形を整える。</p>
	<p>端から5mmの所を縫う。</p> <p>ボタンを付ける場合は、この時点でボタンホールを開ける。 ボタンホールの開け方はミシンの種類によって異なるので、ミシンの説明書を参考にしてください。</p>
	<p>身頃側に付くポケット布に型紙から図のように線を写しておく。 (ポケット布4枚中2枚だけ)</p>
	<p>身頃に描いたポケットの印と、ポケット布の印を合わせるようにして重る。</p> <p>この時身頃は表を上、ポケットは裏を上にして重ねる。</p> <p>ずれないようにしつけ糸を使って手縫いで固定しておく。 だいたい印から5mmくらい離れたところを縫う。 (ミシンで仕付け糸の上を縫ってしまった時、後で糸を抜きにくくなるので、少し離れたところを縫うのがポイント)</p>



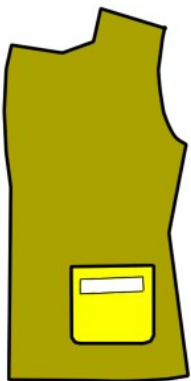
裏から見るとこんな感じ



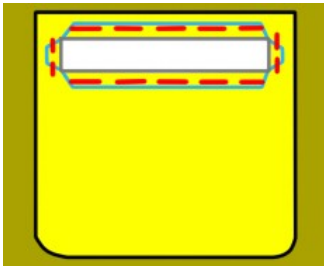
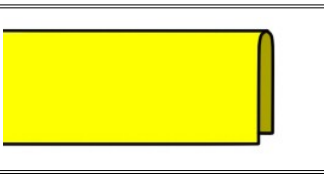
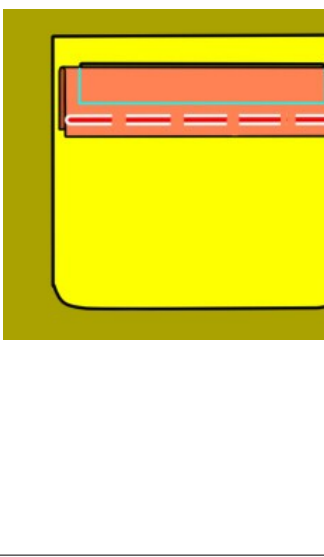
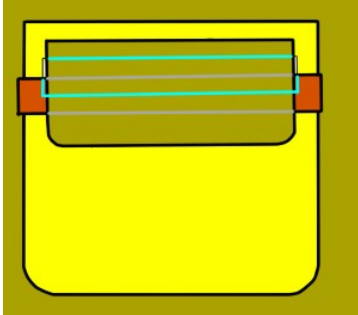
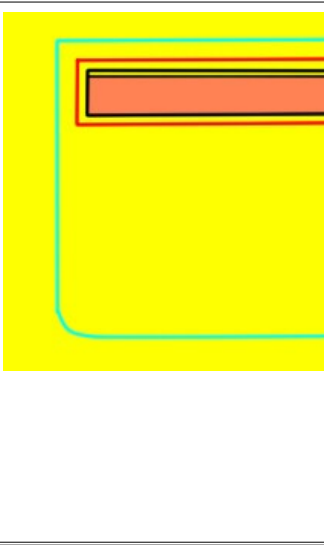
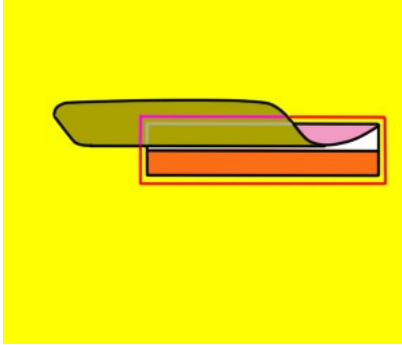
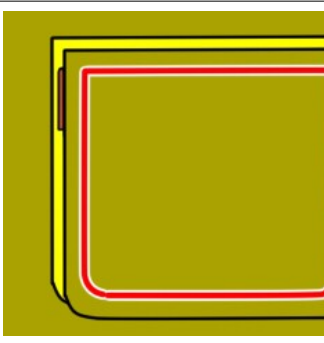
ミシンで四角の印の上を縫う。

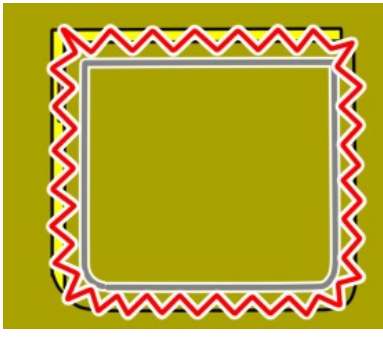
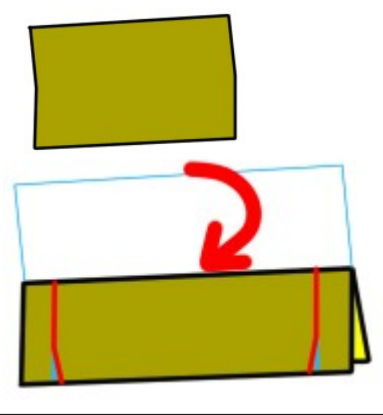

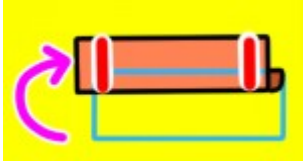
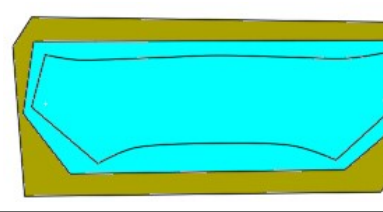
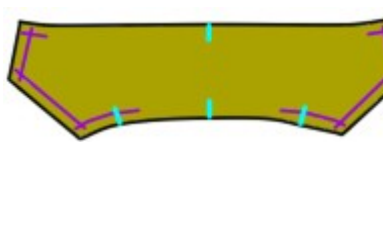


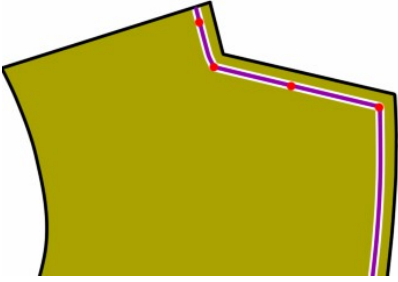
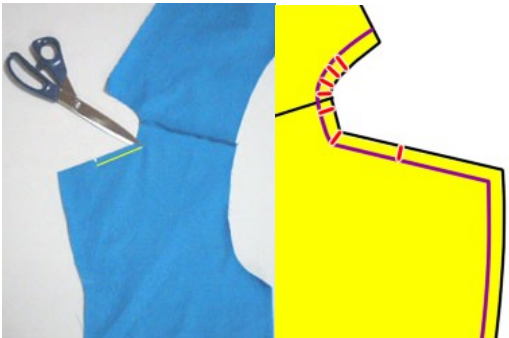
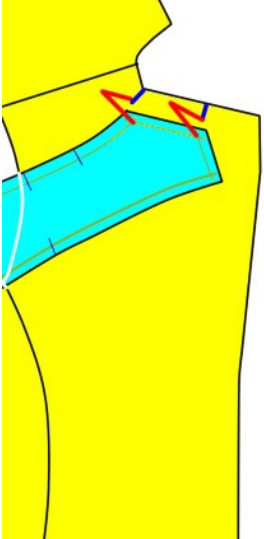
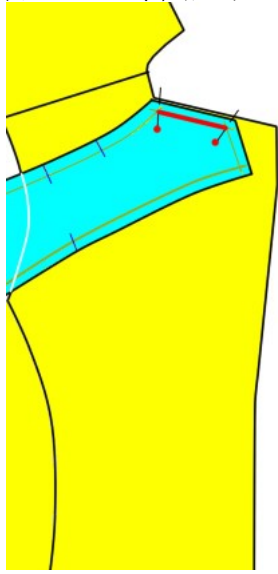
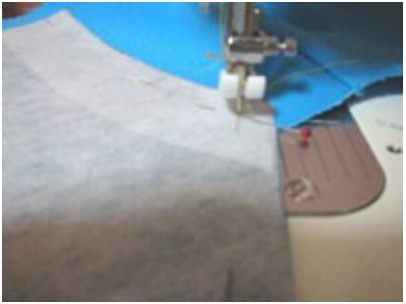
ハサミで赤の印の上を切る
この切り口からポケット布を裏返す。

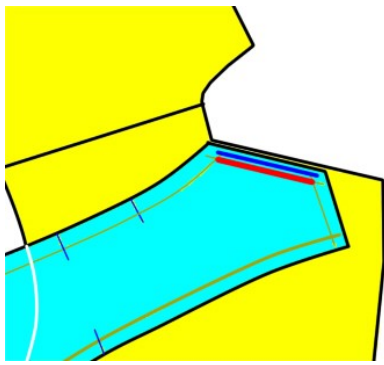


裏側へポケット布を引っ張り出したら、形を整えてピンで固定する。

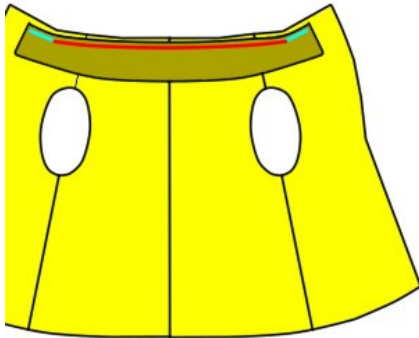
	<p>穴の端から3~5 mmの所をしつけ糸で縫う。</p>
	<p>たまぶち布(下図のオレンジ色のパーツ)を半分に折る。</p>
	<p>たまぶち布を、折り山が上に向くように置く。 ポケット口の上側に玉ぶち布の上部を合わせ、しつけ糸で玉ぶち布、ポケット布、表生地を一緒に縫う。</p>  <p>雨ぶたを付ける場合は上側の玉ぶち布の代わりに、雨ぶたを重ねしつけで固定する。</p>
	<p>表を上にして、ポケットの穴から1~2mmの所をミシンで縫う。 しつけ糸は外す。</p>  <p>雨ぶたつきの場合は、雨ぶたを表に引っ張り出して、雨ぶたの余計ない所を縫い込まないようによけてから縫う。</p>
	<p>裏返して、もう一枚ポケット布を重ねる。 ポケット布同士の縫い代を縫う。</p> <p>この時表の生地を縫いこまないように注意。</p>

	<p>ポケット布 2 枚一緒にほつれ止めする</p>
	<p>飾りの胸ポケットを裏側へ半分に折る。</p> <p>両端を縫う。 この時下側の縫い代部分にかかる縫い目は少し内側に向けて縫う。 表返し、アイロンで型をつける。</p>
	 <p>飾りの胸ポケットは、折り山が下になるように置き縫う。</p> <p>ポケットを正しい位置におこしてポケットの両脇を縫う。</p>
	<p>・えりを縫う。</p> <p>ざっくり切った生地より気持ち小さめに切った接着芯を貼り付けます。(接着芯がはみ出ると、アイロン台にのりがつくので注意してください)</p>
	<p>接着芯をつけたらえりにするしを入れる。</p> <p>裏側に、縫いやすいよう交わるように出来上がり線を引いておくと綺麗に縫えます。</p> <p>※見返しにつくほうが表えりになります(折り返して表に来るので)</p>

	<p>身頃と、見返しのえりの所にも印を付けておくとより縫いやすい</p>
	<p>そのままだとえりぐりを縫うとき引きつるので、前身頃の縫い代に縫い目を切らないよう切込みを入れる。 (1mm手前まで)</p> <p>切込みを入れる場所は後ろのえり首のカーブの所、前身頃と見返しの型紙に印のある所の縫い代に切込みを入れる。</p> <p>— or ○ (洋裁工房の場合この印) ○ — この模様は切込みではなく点で印を入れる。</p>
	<p>えりの印と、身頃の位置があうように、生地に対し垂直に針を刺してから、固定する。</p> 
	<p>縫い始めは手動で、丁度交点に針が落ちるようにミシン針をおろして縫い始める。</p>

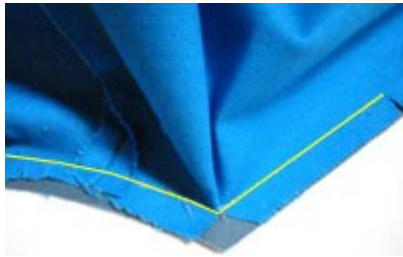


縫い終わりも縫いすぎないように注意して、スピードを落とすか、手動でぴったり交点まで縫う。
縫い慣れていない人は、ミシンで縫う出来上がり線より2~3mm離れた所(青い線)を手縫いで縫っておくと、縫いやすい。

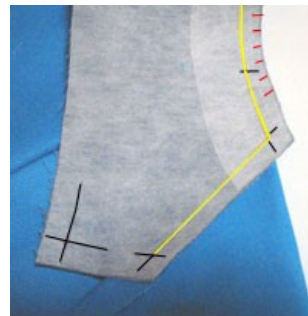


1)

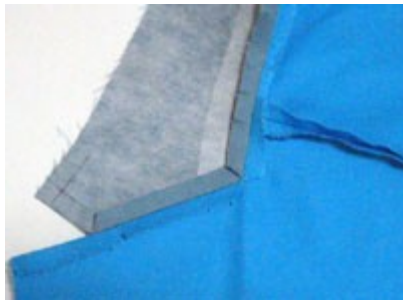
1) 首の横から後ろを縫う。(赤い線の部分)
先に、ミシンで縫うラインより2~3mm離れた所をしつけ糸で手縫いしておく。
それからミシンで縫うと綺麗に縫いやすい。
出来るだけずれたりしないように角が合うように縫う。
これが重なったりずれたりすると表から見たとき引きつったように見えたりします。



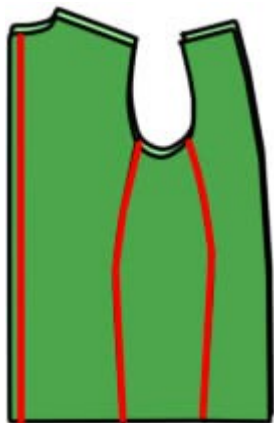
2)



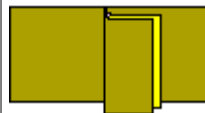
2) 余分な生地を縫いこんだりしないように、図のように生地をたくし、縫う。
えりのカーブの所も引きつたりゴロゴロしやすいので、ぬいしろに浅く切込みをいくつか入れておくと落ち着きます。



アイロンで縫い代を割る。



裏地を縫う
表と同じように裏地の後中心と、後脇、前脇を縫い合わせる。



縫い代は後中心に向かって倒す。

後中心はお好きな方へ。

裏地を調節する方法

まず普通に出来上がり線のところを縫う。(図い)

5mm前後縫い目より内側をアイロンで折る。(図ろ)

アイロンの温度は中～低温で。

温度が高いと素材によっては縮んだり、引きつったりすることがあります。

折り目を広げないように気をつけて生地を広げる。(図は)

市販の裏地のついた洋服を見てみると、同様に折り目をつけて裏地に余裕を持たせているのを見ることが出来ます。

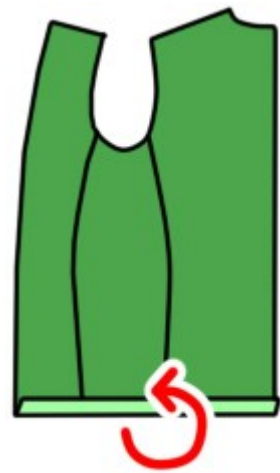
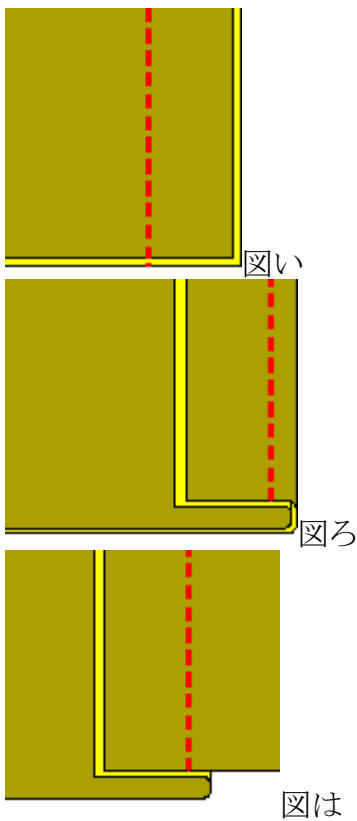
表地より裏地の余裕が少ないと、表が突っ張ったような感じになりますので、裏は多少ゆとりがあったほうが綺麗に仕上がります。

この折り目に余裕を持たせることを

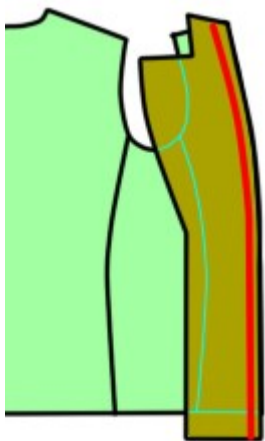
「**きせをかける**」といいます。

きせの幅はきっちりはからなくていいですよ。

特に裏地は裁断している端からずれやすいので縫い合わせる相手の場所にあう長さになるように臨機応変にずらしてください



すその縫い代をアイロンで折る。

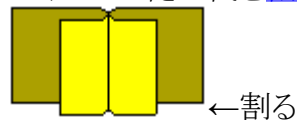


前の見返しのパーツと裏地を縫い合わせる。

(裏地のすそは折ったまま)

裏地は表から見えないように少し短めに作ってあります、そのため見返しは裏地より長いですがこれが正解です。

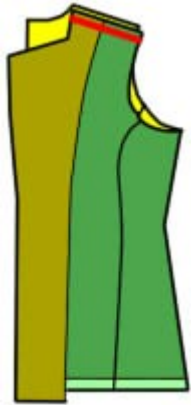
アイロンで縫い代を**割る**。



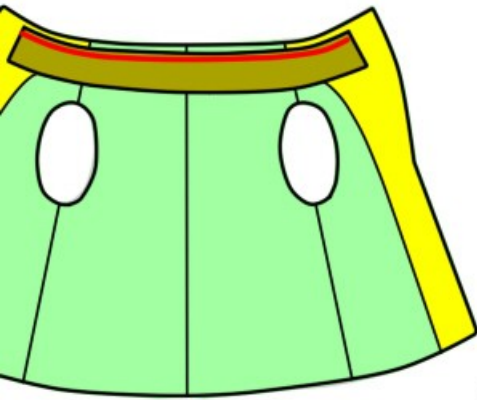


表

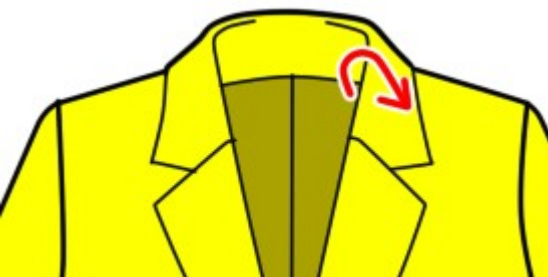
裏



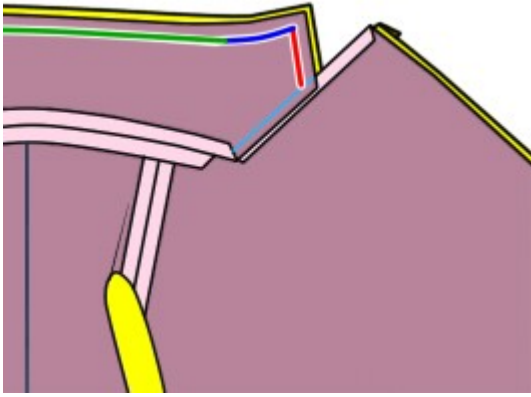
肩を縫う。



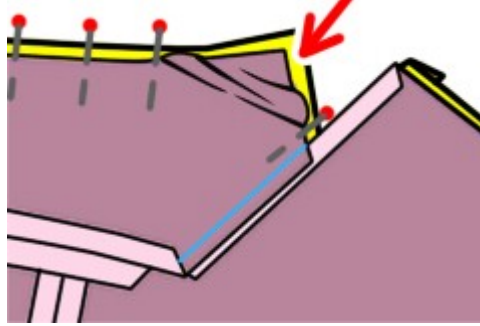
見返しと裏地にえりを縫いつける。
あとは表と全く同じ要領でえりを付ける。



えりは図のように折り返すので、布の厚み分表と裏のえりではずれが
出ます。
そのえりのずれの調整をします

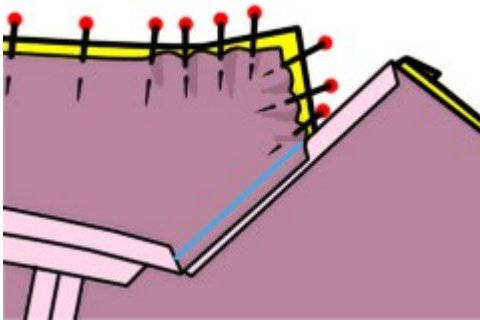


えりにピンを打つとき
緑の区間は均等に打つ。



赤と青の区間は見返し側のえりを2mmほど内側にずらして縫う。

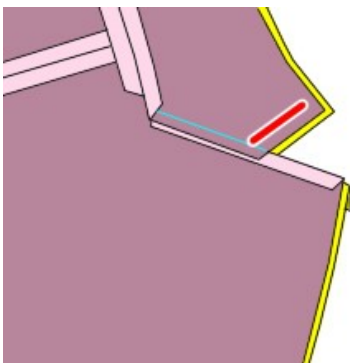
(青の長さは赤の長さと同じくらい)



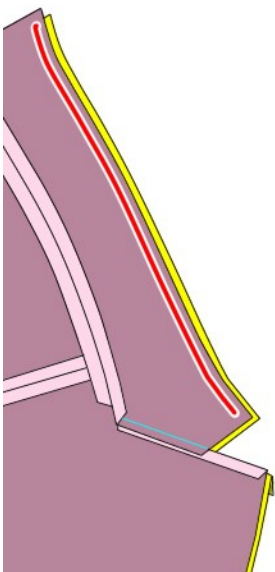
しわにならないようにずらした分を均等に分散させて、細かくピンで固定する。

ずらしたぶん生地にダブつきが出ますが、それで正解です。ずれないようにしつけ糸でミシンで縫う場所より2~3mm離れたところを縫う。

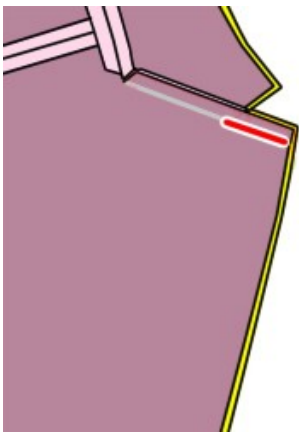
しつけをしたらピンははずす。



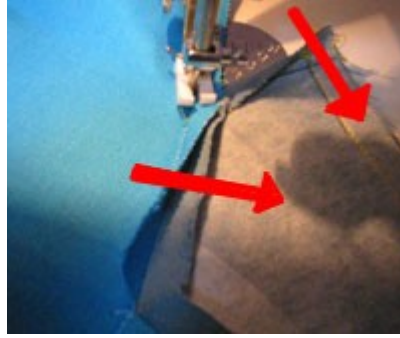
えりの縫い代を縫い込まないようによけて、えりの両端を縫う。



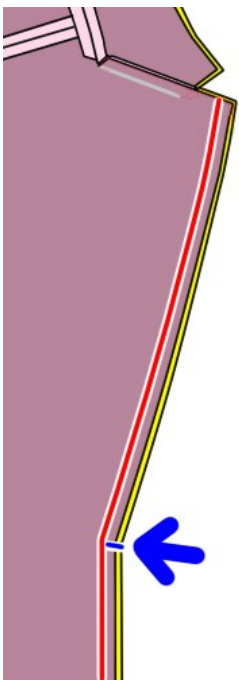
えりの上を縫う。



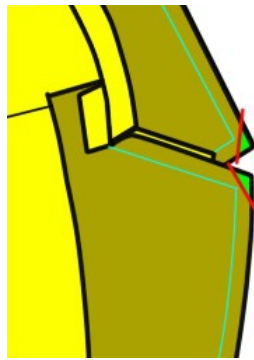
見返しの先からえりの境目までを縫い合わせる。
そして、最初に衿を縫った線と、合体するように縫う。



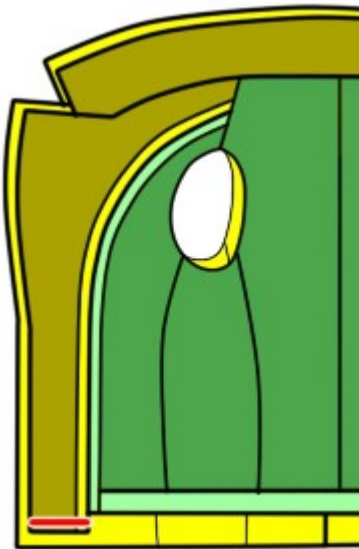
この時もえりの縫い代を縫いこまないように注意して、縫い代をよけておく。



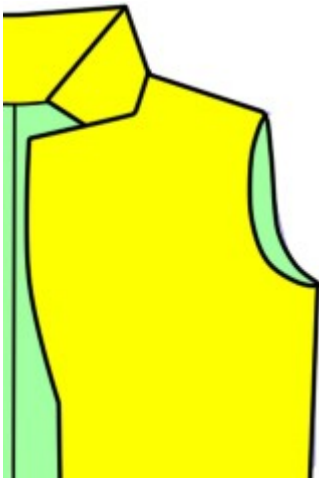
前中心を縫う。
表替えした時、角が引きつらないように、図の青い部分を縫い糸を切らない程度切込みを入れる。



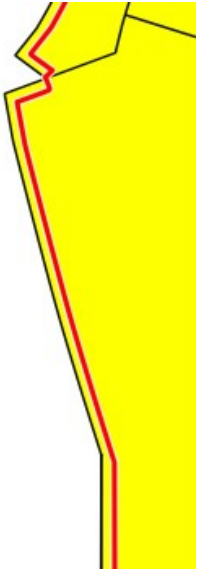
表がえす時に先が厚くならないように、縫い目から2mm離れた角を切り落とす。



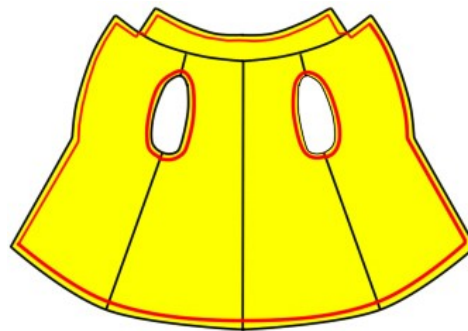
見返しのすそを縫う。



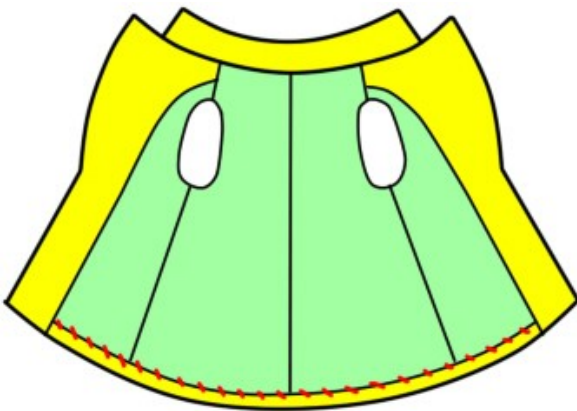
表返す。



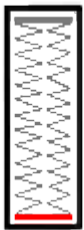
表返す。
端から5 mm の所をミシンで縫う
(表から見える所を縫う事を**ステッチ**をかけると言います。)



そでぐりも端から5 mmのところを縫って裏地を表地に固定する。



すそを手縫いでまつり縫いする。



ボタンホールを開ける
この時点でボタンホールを開けると、そでが無い分縫いやすい。
ボタンの付け方はミシンによって異なりますのでミシンの説明書をご覧ください。

	<p>•そでを縫う</p> <p>そで山にはそでを立体にする為に余裕が入れられています。</p> <p>ここでギャザーを寄せておかなければ、そのままつけるとあまってしまうのです。</p> <p>ギャザーの縫い方は縫う前の下準備参照</p>
	<p>裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せる。</p>
	<p>糸調整を元に戻し</p> <p>2枚のそでを表側が中になるように重ね(中表という)両脇を縫う。</p> <p>同じように裏地も縫う。</p> <p>アイロンでそで口を出来上がり線で折っておく、</p>
	<p>裏地のそで山の縫い代をアイロンで裏側へ折る。</p>
	<p>裏地と表地を内側同士が表になるように重ねる。</p> <p>そで口を縫う。</p>

	<p>裏地をそでの中に入れアイロンでそで口の縫い代を折り、型をつける</p>
	<p>裏にした身頃の中に、表にしたそでをいれ、肩とそでの山の頂点と、脇と、そでの低いところを合わせて縫い合わせる。</p> <p>そでの裏地はよけておく。</p> <p>先に端から 5 mm のところを仕付け糸で縫い、ピンをはずしてから、ミシンで縫うと縫いやすい。</p>
	<p>裏地のそで山は、アイロンで縫い代を内側(中に隠れる方)に折っておく 待ち針でそでぐりにとめる</p> <p>手縫で表に目立たないように裏地をぬいつけていく</p> <p>裏に隠れる部分なのでしわはあまり気にしなくていいです。</p> <p>それより縫い代を余分に取りすぎて、引きつらないように注意してください。</p>  <p>まつり縫い</p>
<p>お好みでそでなどにもボタンをつけましょう</p>	<p>ミシンのボタンホールの機能の使い方がわからないという場合は、ボタンを飾りにして、スナップボタンで固定するという方法もあります</p>

★必要な材料

生地、接着芯、ボタン、糸

★このデザインに適した生地

・ツイル

色数も多く、どこの手芸店でも比較的手に入りやすい。

初心者にも縫いやすい。

綿100%はややしわになりやすい。

ポリエステルが入るとしわになりにくくなる。

・ウール

ウールも織り方や繊維の太さで風合いが異なります。

あまり厚いと初心者は縫いにくいので普通地～中厚地程度の生地がよいでしょう。

チャコペン(インクタイプ)で印が付きにくいので注意。

★関連説明書

縫う前の下準備